

平成20年度地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名 長崎県壱岐市

代表団体名

事業名称 ICTを活用した地域産業・事業者への投資による地域活性化事業

1. 事業実施概要

ICTの活用による農家・漁家等への投資ファンド事業「壱岐の幸サポーター制度」

ICTを活用して全国の消費者に対して壱岐の農家・漁家等に投資する出資者を募り、生産に伴う台風や赤潮などの様々なリスクを消費者が負担する仕組みを構築する。生産者は資金繰りの解消や安定的な商品の販売ができ、天候等の影響を最小限にできるほか、消費者は生産過程のわかる安心安全な食材を比較的割安で入手できる。

2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
壱岐の幸サポーターの会員獲得	合計200万円の会費獲得	57,000円 (15口)	×	会費合計(売上金額)を算出
生産者のブログの頻繁な更新による情報発信	生産者のブログ更新15回/月	ブログ更新 1回/月 (平均)	×	更新回数の確認により計測
都市部での宣伝活動の実施による会員獲得	実施地域からの申込の割合が30%以上	福岡/長崎4件 他地区11件	○	会員の居住地の分析により計測
サービスに対する会員からの満足度の獲得	消費者の満足度が80%以上	—	—	アンケート調査の実施により計測(平成21年4月に確認予定)
リピート会員の維持と増加	会員の70%以上の定着化	—	—	平成21年度より算出 平成20年度はアンケート調査より推計

3. 達成状況が△又は×の場合はその理由

事業の開始が平成 20 年 10 月からであり、当初の計画より遅れて業務を実施しているため、指標を計測する段階まで事業を進められていない状況であった。システム事業者もプロポーザル公募により決定したのが 10 月中旬であり、その後は迅速にシステム構築を進めたが、一般消費者を対象とした会員募集が可能な体制を構築できたのは平成 21 年 1 月上旬、広報活動を伴う正式な会員募集は平成 21 年 2 月 6 日となったため、会員数は当初の見込みより大幅に少なくなった。

現在のところ、業務は当初のスケジュールよりも 3 ヶ月程度の遅延が発生しているが、この遅延は会員募集期間を短縮することで解消した。それに伴い、当初目標としていた会員からの会費は 200 万円から下方修正を余儀なくされた。

ブログの更新は生産者が個人ではなく組織（農協・漁協等）で書き込むことにしたため、消費者からの親近感を出すことができなかった。それに伴い、ブログのアクセス数や書込みも少なく、生産者の更新意欲がそがれてしまったこともある。平成 21 年度は生産者個人の顔が見えるブログの更新を行うほか、担当者の意欲を事前に確認し、ICT の活用に積極的な人選を各組織で実施していただく予定である。

平成 20 年度の目的であった事業モデルの構築及びシステム開発については遂行できた。しかし、当初は商工会で実施する予定であった事務局業務のひとつである受付・発送業務に関して、商品を保有する各組織で実施する運用に変更となったため、システムの仕様が合わなくなった。運用の変更により、ホームページのコンテンツの更新も進まなくなってしまう、会員の満足も十分に得られなかった部分がある。そのため、平成 21 年度は運用に合致したシステムに改修してホームページのコンテンツを充実し、ブログ更新頻度を高め、会員の満足度向上につなげることを目指す。

<委託業務説明書>

1 平成20年度事業実施において明らかとなった課題

初年度事業の場合、システム開発を実施するための事業者選定を行う必要があるが、採択通知を6月に受取っても、システム開発事業者の募集を実施できるのは9～10月頃となってしまう、その間の期間は開発に着手できない。その結果、事業に関する様々なサービス開発及び提供が遅れてしまい、当初想定していたほどの成果を挙げられないこととなってしまう。

上記課題を克服するため、システム開発に関しては予め3ヶ月程度開発期間を多く見積もっておくことにより、スケジュールの変更を事前に防ぐことができたと考える。採択通知から実際に活動できるようになるまでの期間にも、検討を進めることができれば事業が推進しやすくなるため、そのための体制や予算を準備することができればよい。

また、事業でホームページやブログの構築を行う場合、アクセス数の増加が至上命題となるが、その推進方法としては、頻繁に情報を更新する担当者を必ず一人は確保すること、更新によるインセンティブを付与することが重要となる。ブログの更新は組織で実施する場合も、担当者の顔がわかる(本当の顔写真の意味ではなく人物が特定できることが重要)ことで定期的な訪問が見込めるようになる。

2 自律的・継続的運営の見込み

システム維持費が107万円程度である場合、会費の10%を運営資金に充てる計画では約1070万円の会費収入が必要となる。月額に直すと約90万円の会費収入が必要となり、平成21年度の事業でも1ヶ月90万円程度の会費収入を達成できれば継続的運営の可能性が見えてくる。しかし、会費収入以外でも広告収入や、ICTとイベントを連携させた収入等、他にも検討することで、持続可能な運営の可能性が高まる。

平成21年度の運用では、各組織が受付・商品発送業務を各々で実施する体制となる予定であるため、人件費に関しては大幅な削減が見込める。システム回線も組織のものを活用することで費用を抑えられる。これらコスト削減の努力も並行して実施することで、自律的運営の可能性を一層高められると考えている。

3 今後の展開方針

平成 21 年度の活動については、顕在化した課題を踏まえ、今後の事業の見直しや方向性について、今年度 2 回実施した協議会で、委員のほか協議会出席者からも意見が挙げられ、議論を行った。

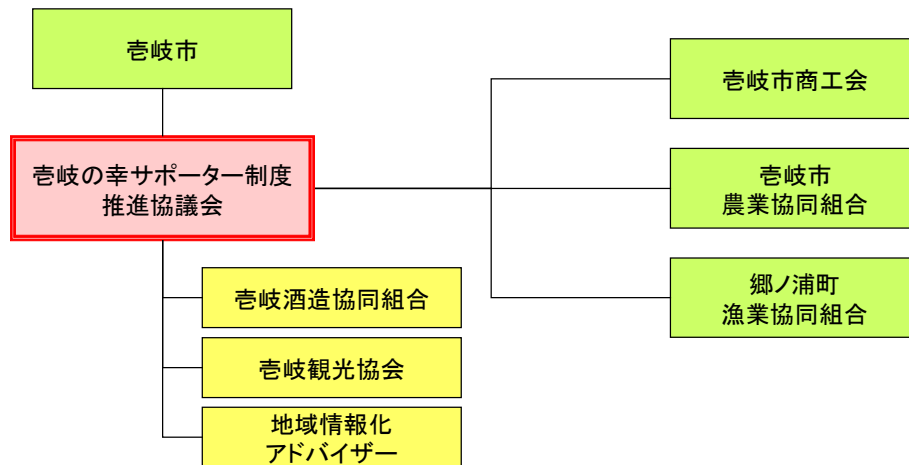
議論で多く挙げられた改善点としては、「会員増加と販売促進を優先させた事業モデルの見直し」「会費を支払った会員以外もアクセスして楽しめるコンテンツの検討」「生産者や事業者が利用しやすいシステムの改善」「生産者の顔が見えるブログ担当者の設置」「生産者の ICT 活用を支援するサポート体制」等が上げられ、事業の活性化を図ることが急務となった。平成 21 年度は協議会の議論の結果を基に、以下のような活動を実施する予定である。

平成 21 年度の活動計画（予定）

実施予定時期	実施事項	主な内容
平成21年4月	事業内容の見直し	・会費を支払わなくても楽しめるサービス内容の検討 ・顔の見える生産者を作るための方法について議論・検討
	新商品の検討	・消費者の要望をより満たした商品の検討
平成21年5月	システム改修の実施	・商工会、農協、漁協が個別管理できるシステムの実現 ・ブログとホームページの連携強化
	システムサポート強化	・生産者、事業者でブログやホームページの更新が十分にできない型を中心としたサポート
平成21年6月	平成21年度商品公開 会員募集活動の強化	・プレスリリースなどを強化 ・東京、大阪などの県外への情報発信強化
平成21年7～8月	イベントの開催	・苓岐市内において交流会の実施検討 ・消費者の声を聞く会の開催 ・首都圏などにある苓岐の幸を提供する店舗との連携
	協議会の開催	
	新商品の検討	・冬に向けた新商品の検討
平成21年10月	アンケート調査の実施	・満足度の変化に関する調査の実施 ・改善点が明確になったところは業務改善を実施
平成21年11月	業務の見直し	・平成22年度以降の事業継続に向けた体制や業務の検討
平成22年2～3月	協議会の開催	

<実施体制説明書>

1 実施体制



2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	壱岐市	商工会・農協・漁協の連携推進、広報活動
2	壱岐市商工会	事業運営（事務業務）の実施、商工業関連商品の企画・提供
3	壱岐市農業協同組合	農産物商品の企画・提供
4	郷ノ浦町漁業協同組合	水産物商品の企画・提供、市内各漁業協同組合間の連絡調整
5	壱岐酒造協同組合	情報共有と活動の相乗効果の検討 酒類商品の企画・提供
6	壱岐観光協会	情報共有と活動の相乗効果の検討
7	地域情報化アドバイザー	事業に対する助言

事業実施進行表

[illegible]

■ システム構築									
申込フォームと窓口の設置									
ホームページの構築									
会員管理システムの構築									
生産者のブログの構築									
IT講習の実施									

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

[1] <http://iki.fun.jp> [壱岐の幸サポーターHP]

平成20年度地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：長崎県 壱岐市

代表団体名：

事業名称：ICTを活用した地域産業・事業者への投資による地域活性化事業

1 概要

壱岐の幸サポーターの募集のためのホームページの構築及び会員受付のための申し込みフォームと管理システムを開発した。

主なサブシステムは次のとおり

(1) ホームページ

壱岐の幸サポーター制や壱岐の特産品、旅館などを紹介し、会員申し込みフォームを構築した。

(2) 管理者支援システム

会員の管理から入金管理(例えばステータス<入金待ち⇒入金済>管理)会員へのメールでのお知らせ、配送管理等のシステムを構築した。

(3) 生産者ブログシステム

日常の業務や生活について生産者が情報発信を行い、会員からの応援のコメントや意見に対して返信していただくためのブログシステムを構築した。

2 運用結果

会員としては27名の申込みをいただいたが、特産物の注文に結びついていないところがある。会員となっていた後、特産物の注文へ流れるような工夫が必要であった。また、新着情報やブログの更新がスムーズに運用できなかった。

3 課題・改修の必要性

今年度の運用で多数の課題や改修の必要性が見えてきている。例えば、企画段階では商工会が事業を一元化するシステムを想定していたため、現在の事業モデルには合致しない点が発生している。21年度は生産者、事業者はもちろんのこと、消費者の意見も取り入れたシステム改善を図りたい。

4 その他

初年度ということもありシステムの改善点が多数出てきているため、21年度は生産者・事業者や消費者の意見を取り入れ、閲覧者からはより見やすく、生産者・事業者からはより使いやすいシステムを作り上げたい。

また、今年度は生産者、事業者でブログやホームページの更新が十分にできなかったため、システムの運用のサポートにも力を入れていきたい。